

社会システムの時間性と同時性

——ニクラス・ルーマンの社会システム理論における時間の問題について——

日本学術振興会 梅村麦生

1 目的

本報告では、社会学的な時間理論の可能性を示唆しているものとして、ニクラス・ルーマンの社会システム理論から時間に関する議論を取り上げ、検討する。

社会システム理論に特徴的な時間の捉え方として、社会的な諸システムの分出や発展と、そのシステムに固有の時間の分出と発展とが相関している、という考え方は、さかのぼればソローキンとマートンによる社会学的な時間論の古典や、デュルケームのカテゴリー論にもすでに見出すことができる。本報告では、そうした社会学的な時間論の蓄積を前提とした上で、現代の社会システム理論が時間についての社会学的な知見に関して、どのような貢献があったのかについて考察する。

2 内容

ルーマンは自身の社会システム理論を展開していく中で、「時間とは観察者による構築物である」という見解を提起した (Luhmann 1990)。さらに未来と過去とを現在において峻別する時間概念は、近代的な時間ゼマンティックであるとされ、近代社会の成立にともなう「複雑性の時間化」や「時間の歴史化」の帰結とも捉えられている (Luhmann 1980)。

しかし他方で、何らかのシステムが環境から分化することで「同時」にそのシステムに固有の時間が産み出され、なおかつそのシステムと環境との同時性は、不可避的なものであると主張されている。つまりシステムにとって時間とは、構築物であると同時に与件でもあるとされており、いわば時間の操作性と非操作性が同時に主張されている。

以上の二元的性質について、ルーマン自身は同時性／同期化という区別を用いて論じている。加えて、アルミン・ナセヒが示唆する区別として、作動時間と観察時間の区別がある (Nassehi 2010)。本報告では、以上の二つの区別に加えて、同時性と時間性の違い、さらに同時性という考え方自体に含まれる二重の側面を指摘しながら、観察による構築物としての時間と、観察者による構築に附随する現実としての時間という、社会システム理論による二元的な時間についての見解を提示する。

文献

Luhmann, Niklas, 1980, » Temporalisierung von Komplexität: Zur Semantik neuzeitlicher Zeitbegriffe «, in: *Gesellschafts-struktur und Semantik: Studien zur Wissenssoziologie der modernen Gesellschaft*, Bd.1, Frankfurt am Main: Suhrkamp, 235-300. (=2011, 徳安彰訳「複雑性の時間化：近代の時間概念のゼマンティックについて」『社会構造とゼマンティック 1』法政大学出版局, 217-277, 第4章.)

——, 1990, » Gleichzeitigkeit und Synchronisation «, in: *Soziologische Aufklärung*, Bd.5: Konstruktivistische Perspektiven, Opladen: Westdeutscher Verlag, 95-130.

Nassehi, Armin, 2010, » Tempus fugit? 'Zeit' als differenzloser Begriff in Luhmanns Theorie sozialer Systeme «, in: Helga Gripp-Hagelstange (Hg.), *Niklas Luhmanns Denken: interdisziplinäre Einflüsse und Wirkungen*, Konstanz: Universität Verlag Konstanz, 23-52.